

第5学年1組 道徳学習指導案

指導者 鈴木 尚子

- 1 主題名 相手の立場になって 2 – (4) 寛容・謙虚
2 資料名 すれちがい

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

高学年における内容項目2 – (4)は、「謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする。」となっており、広がりと深まりのある人間関係を築くために必要な謙虚な心と広い心を持った児童を育てようとする内容項目である。

この時期の児童は、自我が発達する一方、一つの事象に対する判断が、得てして自分本位に陥りやすい傾向をもっている。自分の立場や利害だけの自己主張には無理があることに気付かせ、その上で眞の自我形成に至る道筋を開いてやることが必要になる。また、自分と異なる見方や立場を尊重して他者理解を深め、受け入れていこうとする広い心が大切になってくると考える。

そこで、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような意見や立場を取るのかを相手の立場に立つて考える態度を育てたい。そして、このことが自らを成長・発展させるということを指導の根拠としてふまえ、異なった意見や立場、相手の過ちなどに対しても広い心で対処できるような心情を養いたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態（児童27人 事前調査 9月29日）

《アンケート》

- 友達に、買ったばかりのゲームソフトを貸しました。すると、壊れてしまったと返してきました。あなたなら、どうすると思いますか。
- | | | | |
|----------------------|----|------------------|----|
| (1) 友達だから、いいよと許す。 | 6人 | (2) 謝らせる。 | 5人 |
| (3) 弁償して新しい物を買ってもらう。 | 7人 | (4) 元に戻すまでは許さない。 | 5人 |
| (5) 怒って、絶交する。(許さない。) | 4人 | | |

本学級の児童は、高学年になり他人を大切にする必要性や他人の意見を謙虚に聞くことの大切さについて観念的には理解しつつある。しかしながら、いざその場に立つとその時の自分本位な感情やふとしたところから相手の失敗を責めたり腹を立てたりして、相手に厳しい言動をとってしまっている場面も見受けられる。休み時間の遊びにおいても、自分の言い分を通そうとするあまり、友だちの気持ちを聞かずにトラブルになる児童が多い。

アンケートの結果を見ると、友達だから許すといった人間関係を壊したくないと考える児童も数名いたが、半数以上の児童が、「弁償させる。」「許さない。」と答えており、相手の失敗を容易には許すことができない児童が多いことがわかる。

そこで本時では、子どもたちには、謙虚な心を持ち、相手の意見を素直に聞いて、相手の立場に立つて考える態度を身につけさせたい。そして、異なる意見や立場にも広い心で対処できる心情を育てたい。この時間で、より多くの意見を出し合い、多様な価値にふれることで価値に対する自分の考え方を見つめ直すようにしていきたい。

(3) 資料について

本資料は、よし子とえり子の二人がちょっとしたすれちがいのために仲たがいしてしまったその日の出来事を、自分本位の立場から日記に記したものである。よし子とえり子は、ピアノのおけいこに一緒に行く約束をした。ところが、えり子の急な用事のために、すれちがいが起こっていく。お互いに連絡を試みたのだが、それぞれの都合によりうまく伝わらず、結局二人は別々にピアノの練習に行くことになってしまった。二人にはそれぞれ言い分があるのだが、相手を許すこと、相手の話を聞くことができずにけんかをしてしまう。

このような内容は日常よくありがちな出来事であるため、子どもたちが身近な問題として考えやすい資料である。展開前段では、よし子の考え方や立場を共感的に受け止めて進め、えり子の事情を知ることで、よし子の自分本位なところを感得させたい。そして、どちらにも足りなかつた気持ちがあつたことに気付かせていく。その上で、相手のことを思いやつたり相手の立場になつて考えたりすることが大切であるという価値に迫つていきたい。

4 本時の活動

| | |
|---------|--|
| 本時のポイント | 道徳の時間と学級活動を、心のノートを介して結びつけ、道徳的実践力を高める工夫 |
|---------|--|

(1) ねらい

広い心で相手の立場を考え、自分と異なる意見も大切にしようとする心情を育てる。

(2) 準備・資料

場面絵、文字カード、ワークシート

(3) 本時の見どころ

主人公のよし子に十分に共感させる発問構成をし、自分の考えをもちやすい展開をつくりたい。そして、話合いを深め、価値に迫りたいと考える。展開後段では、心のノートで自分の生活を振り返らせ、学級活動や日常生活と容易に結びつけさせることにより、価値の一般化を図らせ、道徳的実践力を高めたい。

(4) 展開

| 主な活動と発問 | 予想される児童の反応 | 支援と評価 (<small>○はつきりと話せる児童を育てるための手立て</small>) |
|---|---|---|
| 1 これまでの生活を振り返り、発表する。 ○ 意見の食い違いから友達とけんかになってしまったことはありますか。 | <ul style="list-style-type: none"> 休み時間に遊びのルールでけんかになった。 掃除のやり方について言い争いになった。 | <ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいに关心をもたせる程度にし、懺悔にならないためにも、深入りは避ける。 |
| 2 資料を読んで話し合う。「すれちがい(1)」を読む。 ○ 約束を破られたよし子はどんな気持ちだったでしょう。 ○ えり子に「ごめん」と言われても知らん顔をしていたよし子の心の中を考えてみよう。 | <ul style="list-style-type: none"> 誘ったくせにひどい。 電話くらいしてよ。 えり子、大丈夫かな。 謝られても許さない。 自分から約束したくせに、遅いよ。 <ul style="list-style-type: none"> 怒って当然。 許すべきではない。 よし子がかわいそう。 えり子さんにひどい。 怒りすぎ。 許すべき <ul style="list-style-type: none"> 言い過ぎた。 理由を聞けばよかった。 お互いに理由を話せばよかった。 私も悪かった。 相手の立場を考えればよかった。 | <ul style="list-style-type: none"> 話の内容がよく伝わるようにゆっくり読み聞かせ、視聴させる。 約束を破られ、待たされた主人公よし子の不安、腹立ち、等の気持ちに同化させたい。 主人公に十分共感させ、素直な気持ちで発言させる。 <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに自分の思いを書かることで、気持ちを素直に言葉に表せるように支援する。 |
| 「すれちがい(2)」を読む。 ○ えり子の事情がわかつたよし子は、どのようなことを考えたでしょう。 | | <ul style="list-style-type: none"> よし子の自分本意な態度に気付かせ、どうすべきだったかを考えさせてやる。 二人の欠けている点に気付かせるとともに、誰にもありがちな心の弱さを感じ取らせたい。 <p><small>○ 広い心で他人の立場考えて行動することの大切さについて考えることができたか。 (発表、つぶやき)</small></p> |
| 3 自分たちの生活を振り返り、話し合う。 ○ 学級活動で行った「話し合い」で、友達の考え方からどんなことを感じましたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 話し合って意見がぶつかったけど、お互いの考えが深まった。 友達からいろいろな考えを聞いて驚いた。 友達の意見で自分の考えが変わった。 | <ul style="list-style-type: none"> 心のノートP. 54, 55「広い心」を活用して行った学級活動を振り返って、考えさせる。 より好ましい人間関係を築き保っていくためには、どうすることが一番よいことなのか考えさせ、自分たちの生活につなげさせたい。 |
| 4 教師の説話を聞く。 | | <ul style="list-style-type: none"> 心のノートP. 52, 53の詩を読み、余韻をもって終わる。 |